

子どもたちを序列化し、さらに激しい受験競争に追いこむ 「統一テスト」はやめてください！

中学「統一テスト」実施に反対し、撤回を求める署名

大阪府教育委員会は、教職員と父母の意見も聞かず、2015年1月に中学「統一テスト」を実施することを決めました。対象は中学1年生、2年生各7万人、テスト科目は1年国・数・英の3科目、2年国・数・英・社・理の5科目です。

府教委は、学力向上のために、「統一テスト」を実施するとしていますが、「統一テスト」は「学力テスト」とは違って、その結果が成績につながり、高校入試の「内申書」に直接反映させることが想定されています。そして府内全域の点数ごとの分布人数も公表されることになっています。1年から府内全域の中学生が「テスト」結果によって順位づけられることとなります。その結果、「統一テスト」は中学生の進路にかかわる極めて重要な「テスト」となり、成績の順位をめくり、中学1年から熾烈な競争にかり立てられることとなります。

「統一テスト」実施によって、中学1年・2年の子どもたちがそれぞれ1番から7万番までランクづけされ、府内の中学校が1番から463番まで、府内市町村が1番か

ら43番まで序列化されます。

子どもたちがますます「テスト中心」「偏差値中心」の生活に追い込まれていきます。

「統一テスト」実施決定の前に行われた府教委と各市町村教育委員会教育長との意見交換会でも、異口同音に「実施には反対。子どもをさらにテスト中心の生活においこむ」「受験の前倒しになり、授業内容や教科指導が統一テストで良い点数をとるためのものになってしまう」などの反対や懸念の声が多く、教育長から出されています。

同時に、高校受験の評価に結びつく可能性がある「統一テスト」を中学1年から実施することで、中学校生活の早い時期から高校受験を意識し、「テストでいい点数をとること」「順位をあげること」のみに関心が集まるおそれがあります。中学校3年間を通じた子どもたちの成長と発達や、学びに大きなひずみが生じ、子どもたちの人格形成に取り返しのつかない事態をまねきます。

以上のことから、下記について、要請します。

記

- 教職員や父母の意見も聞かず、来年の中学「統一テスト」はあまりに拙速である。
来年の中学「統一テスト」は実施しないこと。

大阪府教育委員会 教育委員長 陰山 英男 様
教育長 中原 徹 様

年 月 日

氏 名	住 所